

## Information

●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。

デュポン株式会社 農業製品事業部

**FAX** 03-3549-1819  [news@dupont-info.jp](mailto:news@dupont-info.jp)

情報センター 〒104-0045東京都中央区築地3-7-10 JS築地ビル5F

※情報提供の目的でダイレクトメールを発送しております。発送、および内容に関するお問合せは、上記までお願いします。

今日もあなたのそばに。明日もあなたのために。

# デュポン通信

2015.9  
Vol.40

## ネギアザミウマ

【アザミウマ目 アザミウマ科】 *Thrips tabaci* Lindeman

**加害作物** ネギ属を好むが広範な作物を加害する

### 発生・形態・被害

日本在来の害虫で、従来から多くの作物に寄生していたものの、大した被害は起こさず、その名の通りねぎ・たまねぎの害虫であった。しかし近年、みかんや各種野菜でも多発生と被害が報告されている。また、一部農薬に対しては抵抗性を身につけている。このため、登録農薬であっても、使用にあたっては、圃場の一部で試し散布をして効果の確認をした方が無難である。外観は橙黄色の1.5mmほどの微小害虫で(冬場は色が濃くなるが)、他のアザミウマと肉眼で区別するのは難しい。



成虫



幼虫

## 育苗期から生育期前半までに密度を高めないネギアザミウマ対策

### 1 抵抗性が付きやすい

世代交代の早い害虫ほど薬剤への抵抗性が発達しやすい傾向がある。

ネギアザミウマは年に10回以上世代を繰り返す、夏では2~3週間で1世代を終わるため薬剤への抵抗性が付きやすい害虫の一つです。従って系統の異なる殺虫剤のローテーションが重要です。

### 2 害虫の密度が高まる前の適切な予防的防除が大切

播種時、育苗期からの防除を徹底し、害虫を本圃へ持ち込まないようにします。また防除適期を知るため、粘着トラップを用いて発生の確認をします。本種はトマト黄化えそウイルス(TSWV)、アイリスイエロースポットウイルス(IYSWV)を媒介するので加害する前に防除しておくことが大切です。

### 3 物理的防除法も組み合わせて

育苗期のハウス栽培では開口部に目合い0.5mm以下の防虫ネットを張るなど物理的防除法を組み合わせることも大切です。

**適用薬剤** デュポン™ベネビア® DO、デュポン™ベリマーク® SC、ランネット45DF  
詳しくはこちらをご覧ください。 <http://ag.dupont.jp>